

# ごあいさつ

津市長 <sup>まえ</sup> 前 <sup>ば</sup> 葉 <sup>やす</sup> 泰 <sup>ゆき</sup> 幸



就任に当たり一言ごあいさつを申し上げます。

このたび、市民の皆様の負託をいただき、歴史ある津市、そして、郷土津市の市政を担わせていただくこととなり、一層の感慨とともに、その重責に身の引き締まる思いでございます。

さて、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から3カ月が過ぎようとしています。被災地の一日も早い復興を願うとともに、この大災害に胸を痛め、我がふるさとを省みた時、あらためて市民の皆様の命を守ること、それが私に与えられた責務であると、強く決意いたしました。

今、我が国では、自然災害に対する危機管理が問い直されています。また、医療、介護、子育てなどの社会保障の先行きや、経済の閉塞感など将来が不透明な状況に置かれています。

こうした不安感、閉塞感を打ち破るために地方自治体に求められることは、今一度地方自治の原点に立ち返ることであり、それは、「市民の命を守る」こと、「市民の心をつなぐ」こと、そして「市民のくらしを創る」ことであると考えております。

まず、「市民の命を守る」ための施策といましては、冒頭で申し上げました自然災害への備えとして、避難体制の見直しや海岸堤防の整備を促進するとともに、救急医

療体制についても、その充実に取り組んでまいります。

また、合併後5年間、津市は、10の地域を持つ、産業、文化、観光などの地域資源を生かし、地域間の交流を活性化する中で一体感を醸成してきましたが、さらに今後は、市民の皆様の声を市政に反映できる仕組みをつくり、地域の声を「かたち」にするための「市民の心をつなぐ」取り組みを進めてまいります。

そして、市民の皆様が将来にわたり生き生きと生活できるよう、雇用の場の創出や一次、二次産業の活性化に向けた支援の一層の充実に努めるとともに、新最終処分場、新斎場、屋内総合スポーツ施設といった生活関連施設を整備するなど、「市民のくらしを創る」ための取り組みを進めます。

以上、施策の一端を申し上げましたが、今後、個々の具現化に向け、邁進してまいります。

「郷土津市のために尽くすこと」それが、私の初心です。

初心を忘れることなく、市民の皆様との「対話と連携」により、津に住むことが誇りに思える「風格のある県都・津」を創っていく所存でございます。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。